



動物レスキュー通信

2013年11月 第5号 (平成25年10月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

コンパニオンアニマル

共生と飼い主の責任



動物飼養のはじまり

今から何万年も昔に、私たちの人間の直接の祖先であるホモ・サピエンスがアフリカ大陸からユーラシア大陸に進出し、犬の祖先である狼と対面し、人間と狼には拡大家族制の群れでの集団生活をするという共通点があり、その事がきっかけとなり、人間が狼を飼い慣らした事が、人間が動物の飼養を始めた始まりだと言われています。この時に人間と狼が共に生活し始めた事が、今私たちが生きて存在出来ている理由であるとも言われています。なぜなら狼やその子孫である犬と一緒に生活する事で、人間は彼らの鋭い嗅覚や聴覚で身を守り、狩りのパートナーとして活躍してくれたからです。そして時は流れ農耕時代に突入し人間は野生動物を捕らえて飼い、家畜化が始まります。そこで収穫した穀物を保存するために食害を与えるネズミを捕食する猫の習性を利用し、猫と人間の関わり合いも深くなるのです。ただし猫は犬のように家畜化はほとんどされず、食事を与え、世話をする程度にとどまっていた。このように最初に犬や猫が飼い慣らされたのは、全ては人間が生活していく為に役立つ意味でのものですが、現在ではコンパニオンアニマル(伴侶動物)と呼ばれ、飼養の目的は大きく変わってきています。コンパニオンアニマルとは文字通り、伴侶として愛情を注ぐ為の対象とし、動物に愛情を注ぐ事で心に潤いを覚え、動物の与

えてくれる安らぎを感じとるような目的があります。ですがそれは飼い主が動物達に愛情を注いでいる事が前提になります。その前提がきちんと守られている間は、動物は飼い主にとっても大切で何物にも代えがたい存在なのですが、いったん愛情を失ってしまうと、動物は面倒で邪魔な存在になってしまいます。けれど飼いに生きていく為のよりどころは飼い主のみであり、飼い主の愛情がなくては生きていけません。そして飼い主から動物に注がれる愛情が深ければ深いほど、動物は飼い主に多くの喜びや安らぎ、心の潤いを与えてくれます。

飼主の責任とは

飼い主が動物に十分な愛情を注ぎ、飼養する為には、その動物の習性・生理をきちんと知る必要があります。習性とは、その動物の種に一般的に認められる行動の事、生理とは栄養・成長・運動・知覚など。その動物の特有な諸現象の事です。それに加え、コンパニオンアニマルとして人間と深く関わり、影響を受ける事によって、本来の習性や生理を大きく変化させ、人の生活に深く溶け込んでしまっている事があるという事も見逃せません。例えば、犬は本来は寒さに強い動物なのですが、人間と共に生活する事によって、いつも暖房のきいた暖かな部屋で快適に生活している場合、突然生活場所を室外に移動させ寒さ

にさらしてしまった場合などは急激な変化に対応できず、大きなストレスを受け、病気になる事もあります。こうして人間が人間の都合で動物を人間社会に深く関わらせてしまったのですから、人間が責任を持って動物を守る義務があるのです。ですから食事、温度、湿度、日照などはもちろんの事、病気予防や日々の観察も怠ってはけません。これからの事をきちんと理解した上で、それでもコンパニオンアニマルを迎える事を選択するのなら、自分の生活条件に合った動物を選ばなくてはなりません。①動物が飼える住まいですか? ②あなたが共に生活したい動物はあなたのライフスタイルとマッチしていますか? ③家族は全員賛成していますか? ④家族に動物アレルギーはいませんか? ⑤動物のお世話に時間と手間を毎日かけられますか? ⑥その動物はあなたの体力でお世話ができますか? ⑦しっかりとしつけをする自信がありますか? ⑧その動物の一生にかかる費用を計算し、それを負担できる自信がありますか? ⑨その動物の生涯の計画を立て、終生飼育をする自信がありますか? ⑩万が一、何かの事情で動物を手放さなくてはならなくなった時、譲渡先などを探す自信はありますか? 以上の十項目全てに「はい」と答えられたでしょうか? いずれかにでも「はい」と答える自信がないようでしたら、動物と共に暮らさなという選択をする事も、動物愛護の一環です。飼い主の環境や条件が整っていない状態では、共に暮らす動物が幸せになれるはずなど無いからです。人間も動物も同じ命。ただ生きていくというだけではだめなのです。幸せに暮らせてこそ命だといふ事を理解して下さい。

詩月財団では、今後も飼い主としての責任、終生飼育の重要性、意識改革など、飼い主さんの意識を高められるよう訴えていきたいと思っております。(詩月)